



ippnw
Internationale Ärzt*innen für die Verhütung des Atomkrieges – Ärzt*innen in sozialer Verantwortung e.V.



»Wir setzen uns für eine friedliche,
atomtechnologiefreie und
menschwürdige Welt ein.«

IPPNW-Regionalgruppe Bochum

c/o Dr. med. Ingrid Farzin
Wirmerstr. 44
44803 Bochum

Mr. MATSUI Kazumi
President of Mayors for Peace, Mayor of Hiroshima
Secretariat
c/o Hiroshima Peace Culture Foundation
1-5 Nakajima-cho
Naka-ku
Hiroshima 730-0811
Japan

松井市長殿

広島と長崎への原爆投下から80年を迎えるにあたり、ボーフム市は、人類にとってのこれらの大惨事の犠牲者と生存者の方々に哀悼の意を表します。80年前、両市の人々は筆舌に尽くしがたい恐怖を経験しました。それ以来、この大惨事の生存者の方々、そして市長ご自身が、核兵器使用の結末について警鐘を鳴らし続けてきました。ドイツでは7月8日、600以上の都市が市庁舎前に「平和市長会議」旗を掲揚し、核軍縮、戦争反対、そして世界中の人々の平和共存への明確な決意を改めて示しました。フェリックス・アイスキルヒ市長は、ここボーフムでもこの旗を掲揚しました。市長への挨拶の中で、このことを表明されました。

ご存知のとおり、広島とボーフムという二つの都市の間には、もう一つ特別なつながりがあります。世界平和教会の4つの鐘は、1952年にボッフム製鉄所「ボッフム協会」から世界平和教会に寄贈されました。鐘が工場敷地から駅まで運ばれる際、1万5千人を超えるボッフム市民が同行しました。彼らは、戦争で被災した日本国民への連帯を示すとともに、二度と戦争によって世界が破壊されることのないよう願いを込めました。これらの鐘は、平和の鐘として意図されたものです。原爆投下80周年にあたる今年、国際核戦争防止医師会議／社会的責任医師会議（IPPNW）のボッフム地域グループは、広島とボッフムの平和への連帯の象徴であるこの鐘を、平和と核兵器廃絶に向けた両都市の連帯を新たにし、再確認する機会としました。

1952年の原爆投下を偲び、ボッフム市民の皆様、核兵器のない世界を目指す闘いにおいて広島との連帯を新たにし、今年1万5000羽の折り鶴を折り、「禎子の鶴」キャンペーンと共に広島へ届けるよう呼びかけました。

大変喜ばしいことに、7月初旬には、当初の予定通り1万5000羽ではなく、2万羽以上の折り鶴を広島の皆様にお届けすることができました。ボッフムの図書館、音楽学校、学校、地域活動団体など、多くの団体、そして多くの個人が協力し、折り鶴を折っていただきました。2025年6月28日に開催された、折り鶴を集めた大規模な平和フェスティバルの写真は、ウェブサイト www.arno-lohmann.de/kraniche でご覧いただけます。松井市長様、核兵器のない世界と平和に向けた、市長の揺るぎない献身的なご尽力に感謝申し上げます。ボッフムの



ippnw
Internationale Ärzt*innen für die Verhütung des Atomkrieges – Ärzt*innen in sozialer Verantwortung e. V.



»Wir setzen uns für eine friedliche,
atomtechnologiefreie und
menschwürdige Welt ein.«

折り鶴は、広島と長崎への連帯を示すものであり、核兵器廃絶という共通の目標と、紛争の平和的かつ外交的な解決のために、あらゆる努力を尽くすという私たちの決意を表明するものです。

IPPNWグループ

イングリッド・ファルツィン医学博士

Wirmerstraße 44

D-44803 ボッフム

ingrid-farzin@mailbox.org

アルノ・ローマン元牧師

Kreyenfeldstraße 63

D-44894 ボッフム

a.lohmann@t-online.de